

岡山県青少年教育センター 閑谷学校は、特別史跡旧閑谷学校の環境と伝統を保護し、その活用を図るとともに、集団生活を通して心身ともに健全な青少年を育成するという目的で、1965年に設置された。当時のセンターは、前年まで県立和気高等学校閑谷校舎だった建物で、史跡内の火除山（ひのけ）の西にあった。

この建物は、1905年に私立中学閑谷饗の新校舎として岡山県の建築技師だった江川三郎八が手がけた。以後、県閑谷中学校、県立閑谷高等学校、和気高等学校閑谷校舎と変遷する。センターはやがて史跡東隣の現在地に新築され、以降は資料館として閑谷学校の歩みを展示する。落成後、115年の月日がたつ。

閑谷学校は今年、創学350年を迎えた。1670年に岡山藩主池田光政公が津田永忠に学校建設を命じて後、石塀に囲まれた今の閑谷学校の全容が整うのにかかっ

岡山県青少年教育センター 香山 真一  
閑谷学校所長

## 永続する学舎



◇筆者紹介（こうやま・しんいち）

富山大人文学部卒。岡山県立高校で国語科教諭として勤務。2013年和気閑谷高校長に就き、退職後の20年4月から現職。中央教育審議会の臨時部会委員も務める。津山市出身。岡山市中區在住。60歳。

た歲月は約30年。光政公の下命に、この学校を永続すべきとの条件が付せられたことよって、当時の建築技術の粋を集めて「持続可能な開発」をしたからである。

しかし重要なことは、堅牢な建物もその永続を支えるのは活用する人の存在だということであり、資料館の歴史がそれを物語る。

国宝の講堂に座ると、300年を超える時間とともに真摯に学んだ幾多の者の気配を感じ、背筋が伸びる。皆さんもぜひ足を運んで、一緒に永続を支えていただきたい。

一日一題